

大災害時の避難所運営体制、支援物資管理などに注目 市議会災害対策特別委員会が熊本市を視察し、熊本地震の教訓などを学ぶ

市議会災害対策特別委員会（小林和孝委員長）は1月23日、24日と熊本市を視察、同市の災害対策を学んできました。

熊本は一昨年の4月に震度7以上の地震の連発で死亡者79名、重傷者759名という大きな被害が出たところですが、現地はいまも復旧、復興で忙しい状況ではありませんが、全国の自治体から熊本の経験をともに地震対策を強化してほしいという同市の姿勢もあって、視察が実現しました。

23日は、熊本市議会の藤山副議長、熊本市政策局危機管理防災総室の平井副室長などから対応していただきました。説明していただいた委員会室からは熊本城の修復工事の様子がよく見えました。



熊本地震の教訓について語る平井副室長

冒頭、挨拶された熊本市議会の藤山副議長は、「上越市の取り組みからも学びたい。熊本城の本丸はまもなく終わるが、石垣、櫓（やぐら）は復旧まで20年くらいかかる見込み。多くの文化財も被害を受け、復興は道半ばだ。いっどこで災害が起きるかかわからない。今後、連携を深めていきたい」とのべられました。

「熊本地震の対応と教訓」と題して報告された平井副室長の話は、「ほぼ全職員が初めての経験で動揺した。職員の安否不明もあつた」「対応マニュアルは役に立たなかった」など実際の体験に裏付けられた、率直な見解も明らかにされ、とても参考になりました。

「職員中心の避難所運営には限界あり」と指摘

課題として平井副室長が明らかにしたのは、①避難所関係、②受援・ボランティア、③情報管理、④備蓄・支援物資の4分野です。

このうち避難所関係では、避難所となるはずだった学校体育館までもが被災し避難所の数そのものが足りなくなったことを明らかにするとともに、「職員中心の避難所運営体制には限界がある。避難者がお客さん化してしまった」「福祉避難所へ一般避難者も入り

込んでしまった」などという問題をクローズアップしました。上越市は現在、職員中心に避難所運営していますが、大災害時にどうなのか検討が必要です。

情報管理では、市民も行政も悪質なデマ情報に苦しめられたといえます。こうした中で市長がツイッターなどで市民への情報発信を続け、それが有効に作用したとのことでした。

備蓄・支援物資の関係では、底をついた備蓄と避難所に届かない支援物資の状況が赤裸々に語られました。支援物資を1箇所集中集積（拠点集積）しようとしたことから搬送車両の大渋滞を招いた、搬送トラックに積まれた中身がわからず非効率な物資管理となつてしまった、不慣れた職員よりも物流のプロに物資管理・配送を委託した方が良い、などの説明に視察メンバーは注目しました。

最後に印象に残ったのは「災害時に欠かすことのできない三助」。自分の身は自分で守る、一大事はみんな助け合う、市役所は被災者の救助・支援をする、という内容です。災害対応のキーワードは「市民・地域・行政の力を結集」というのもうなづけましたね。



【フキ】キク科の多年草。漢字で「落」と書きます。このコーナーに初登場です。雌雄異株で、花も違います。たんぼぼのような綿毛をつけた種子を飛ばすのは雌です。花言葉は「待望」「愛嬌」「仲間」など。



視察の2日目。熊本地震で大きな被害の出た熊本城の災害復旧現場を見ってきました。ボランティアのTさんから、主な被災現場を丁寧に説明していただきました。そのなかで注目したのは石垣の復旧です。被災前の写真などと照らし合わせながら、崩れた石をひとつひとつ特定する作業を行っていました。文化財を守る一環である、石垣復旧作業の専門性の高さというか、丁寧さにはびっくりでした。

はしづめ法一の活動レポート

No.1843 2018.2.4
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら


春よ来い

第四九一回

ニコニコ半分

地吹雪が始まって3日目。柏崎の義母が初めて老健施設に入るといので、妻とともに柏崎市内にあるその施設まで車で出てきました。

施設は妻の実家から二キロほど離れた高台にありました。市道から施設への入り口はけっこう急な坂道となっていて、道路脇のコンクリートの縦板から消雪用の水が横に噴き出ていました。

施設は思っていた以上に大きな建物でした。入所定員は一四〇人。数年前に亡くなった柏崎の義父もこの施設でお世話になったのですが、そのときは入所期間が短かったこともあって、私が施設に行くことはありませんでした。今回が初めてです。

施設の玄関に入ると、まず目に入ったのは人形です。右手の壁に三、四段、和服姿の人形が数十体置かれていたのです。人形は着物を着せた本格的なもので、とてもよくできていました。どこかの人形館から借りてきて、いつとき展示されているのかなと思っただけです。

受付まで行くと、事務室の中には、すでに義母と妻の実家の義兄などが入っていました。入所の手続きをしていたのでしようね。施設長さん、ケアマネさん、介護士さんなどから説明を受け、聞き取りも行われていました。

「お母さん、何か趣味ありますか。好きなことありますか」。職員さんの質問に義母が黙っていると、義姉などが、「紙折るのが好きのようです。人形つくったりしてました」「数年前まではやってたけど、最近はどうだろう」と義母の代わりに答えていました。そして、誰かが「計算問題が好きなんです。九九が得意なんです」と言ったのです。これには、みんなが笑いました。事務室での手続きが終わってから、義母

が入る部屋に案内してもらいました。入所に当たっては大きな袋を三つほど持参していましたが、その一つを私が持ちました。義姉たちが「食堂の前だつて」「いいとこだね、すごいね」などと言葉を交わしている時、義母はちよつと落ち着きがなく、「不安なんだわ。行くなつて言うてきかさから」と誰にともなく言っていました。

義母が入るところは二階の中ほどにあり、四人部屋でした。義母のベッドは窓際です。「日当たり良さそうだねかね。こりや、いい部屋だ」「ダンスもあるんだね」などとみんなが部屋をほめました。

ひと通り、部屋のことを聞いた後、義母が持参した荷物の整理にかかりました。「かあちゃん、これ、着ないんじゃない。持って帰っていい」「これはダンスの上でいいのかな」などと賑やかです。

義母は東京生まれ。着るものひとつとっても、しゃれたセンスがあります。持参したものの中には手鏡と化粧用具もありました。義母は九三歳。「たいしたもんだ」そんな顔をしていると、義母は「頭の手入れ、したいんだよ」と言いました。

同じ部屋には九一歳だというお母さんもいました。柏崎市与板の出身で、同級生の一人が義母の住んでいた集落に嫁に来ていたとのこと。義兄が、「『かどべいどん』（屋号）の引つ張りかね。よかったね、話し、合うかも」と言っていました。

荷物の整理が終わって、私たち夫婦が帰ると言うとき、義母が小さな声で「帰っちゃうの」と言いました。私は義父が手を合わせて私たちに「帰らないでくれ」と頼んだ七年前のことをふと思い出し、心配しました。でも義母は気丈な人です。「ありがとう。にこにこ半分、半分心配だけどね」と言っただけに手を振りました。

ニュースフラッシュ



【防雪柵への関心高まる】4日連続の地吹雪で、防雪柵への関心が一気に高まっています。ある町内会の会合では、「県道柿崎牧線、地吹雪がひどい」「他の県道でも車が落ちていたよ」などの声が上がっていました。今後の対策のためにこうしたところはぜひ写真に撮っておきましょう。

写真は新井柿崎線内雁子地内。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月24日(水)	1月31日(水)
上越南消防署	0.057	0.037
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.053	0.047
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.050	0.040
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.057	0.050

【森の草花】野の花を愛する人はいろんなところにいます。先日お世話になった医療機関では、野の花に関する絵本が待合室に数冊置いてありました。写真はそのうちの1冊です。何種類もあるネコノメソウのイラストに引き付けられました。



【醤油の実】先日、大島区菖蒲地区のある家の玄関に入ったとたん、豆の甘い香りが漂ってきました。大きな鍋の中でぐっぐっ煮て、作っていたのは「醤油の実」です。出来上がった段階で、コーヒの空き容器に入れてもらってきました。一番喜んだのは母です。家族の前で、「こりや、うんめがど」を繰り返していました。